

報告事項工

平成20年度新体力テスト調査結果について

平成20年度新体力テスト調査結果について、別紙のとおり報告します。

平成21年6月2日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

平成20年度新体力テスト調査結果について

体育保健課

1 調査の目的

新体力テストを実施することにより、児童生徒の体力（運動能力を含む）の現状を明らかにするとともに、学校体育の指導及び行政上の基礎資料とする。

2 調査対象及び人数

鳥取県内すべての公立小学校・公立中学校・県立高等学校（全日制）の児童生徒数の約10%にあたる人数を抽出した。

抽出数：7,932名（児童生徒数 64,144名）

3 調査期間

平成21年5月～ 7月 調査

9月～12月 集計・分析

12月、2月 検討委員会（データの分析・考察、今後の対応策の検討）

4 調査項目

（1）体力テストの調査項目（8項目）

- ・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ボール投げ

（2）生活習慣調査項目（7項目）

- ・運動部やスポーツクラブへの所属、運動・スポーツの実施状況、運動・スポーツの実施時間、朝食の有無、睡眠時間、テレビの視聴時間、パソコン・携帯の利用時間

5 調査結果の概要

別紙1～3のとおり

6 今後の対応策について

（1）本調査結果を学校現場に提供し、学校体育、特に教科指導の充実・改善に活かす。

- ・本調査結果をまとめた冊子「児童生徒の体力づくり」の配布
- ・各校種体育研究会への紹介
- ・学校体育指導者講習会をはじめとする各講習会、研修会等での紹介

児童生徒の体力の実態に応じた指導や体力向上に向けた系統的な指導の充実を図る。

（2）子どもの体力向上支援委員会で体力向上支援策を検討する。

- ・文科省が実施した「全国体力、運動能力、生活習慣等調査」の結果も踏まえた本県のより詳細な体力・運動能力の分析と課題把握
- ・分析結果を基にした子どもの体力向上支援策の検討

体力向上支援策を学校等へ提供し、体力向上に向けた取組の充実を図る。

別紙 1

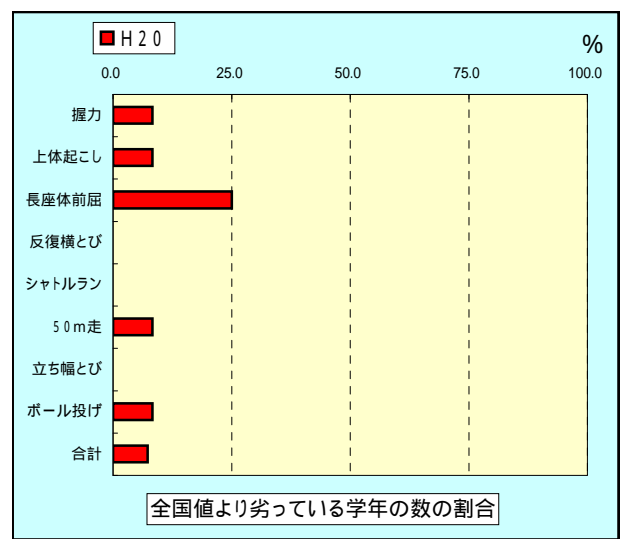
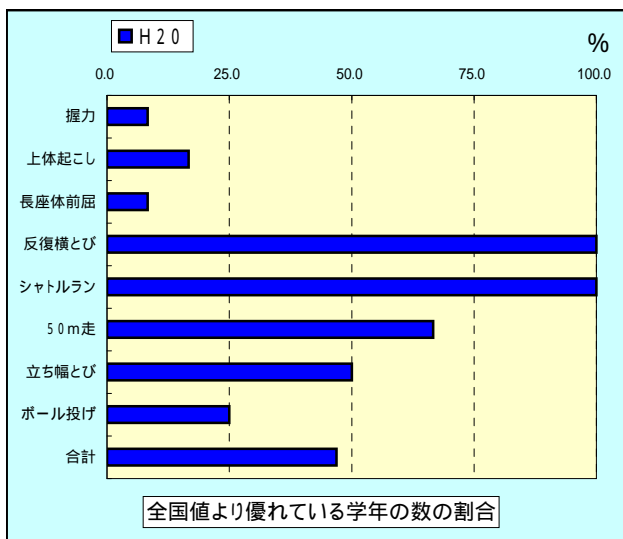
1 新体力テスト合計得点の全国平均値との比較

男子	1年(6歳)		2年(7歳)		3年(8歳)		4年(9歳)		5年(10歳)		6年(11歳)	
	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県
	30.20	31.61	37.15	38.51	43.02	44.47	48.98	51.63	55.62	56.59	60.90	61.58
女子	1年(6歳)		2年(7歳)		3年(8歳)		4年(9歳)		5年(10歳)		6年(11歳)	
	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国	県
	29.57	31.18	36.86	38.74	43.00	45.55	48.92	50.52	55.13	57.24	61.07	62.41
	33.73	34.98	42.94	43.07	49.43	49.82	50.30	52.67	54.01	55.73	56.93	58.64
	43.79	46.27	49.44	50.02	51.49	52.30	47.95	50.86	50.42	52.75	51.92	51.67

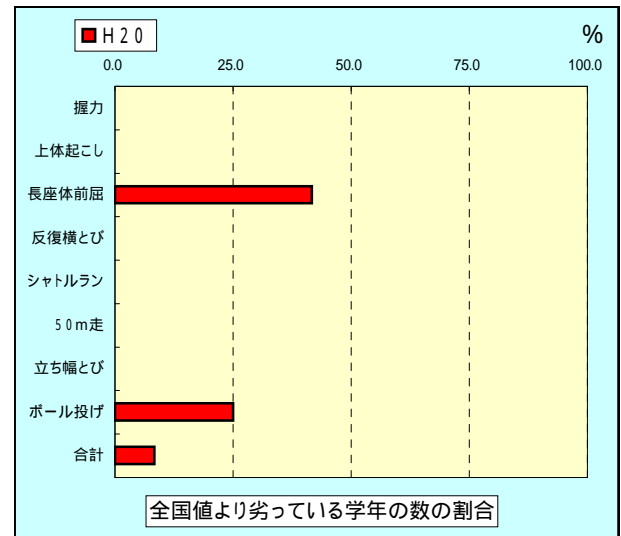
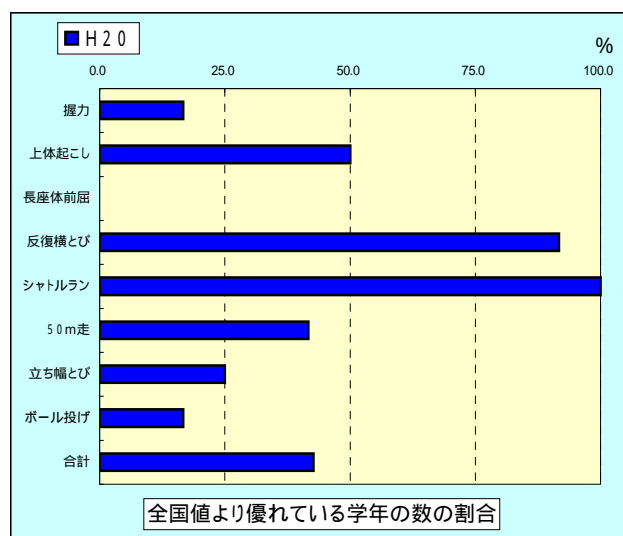
2 Tスコアによる全国との比較(種目別に見た場合)

全国値と比較して、各種目ごとの有意差が認められた学年の数(小1~高3・全12)の割合

男子

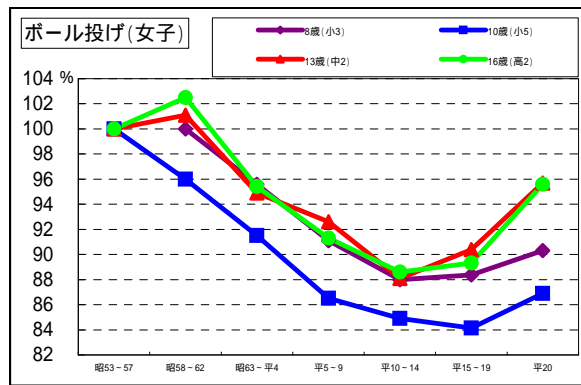
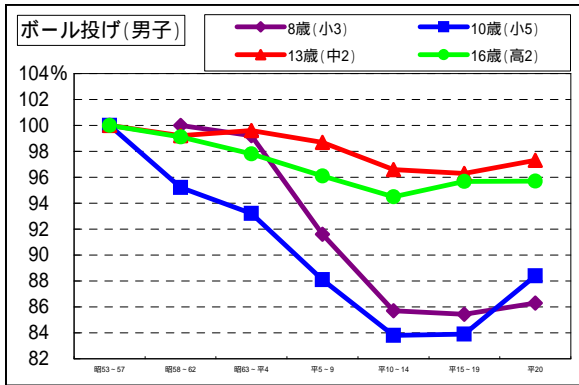
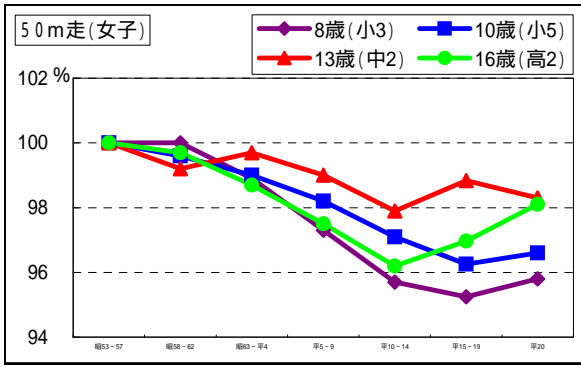
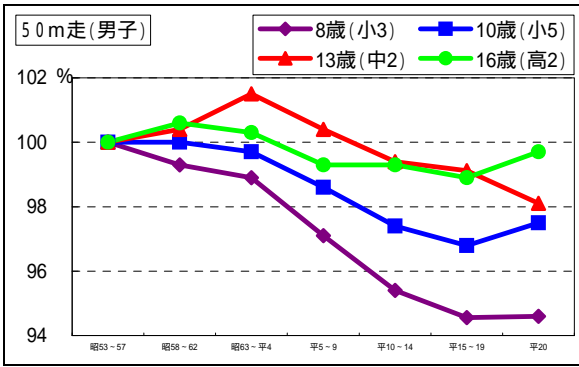


女子

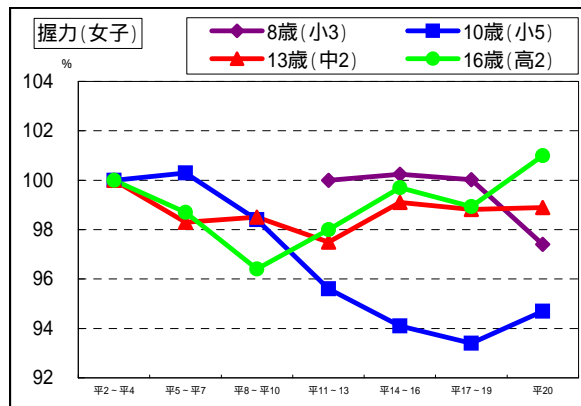
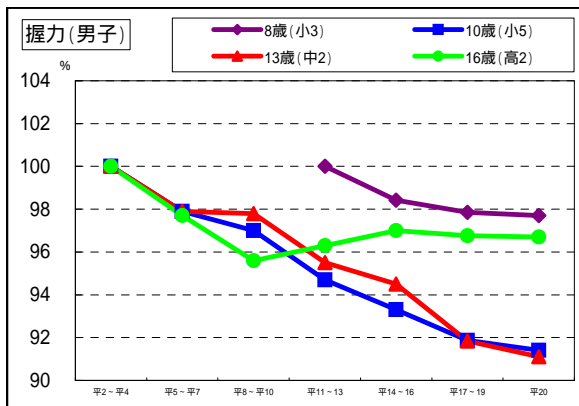


合計得点は、高3女子以外で全国値を上回っている。
 シャトルラン(全身持久力)は、男女とも全学年で全国値より優れている。また、反復横跳び(敏しょう性)も、ほとんどの学年で全国値より優れている。
 本県の課題であった50m走(走力)、ボール投げ(投力)は、全国値より劣る学年が減る傾向にある。
 長座体前屈(柔軟性)では、全国値よりも劣る学年が昨年度よりかなり増え、新たな課題が見られた。

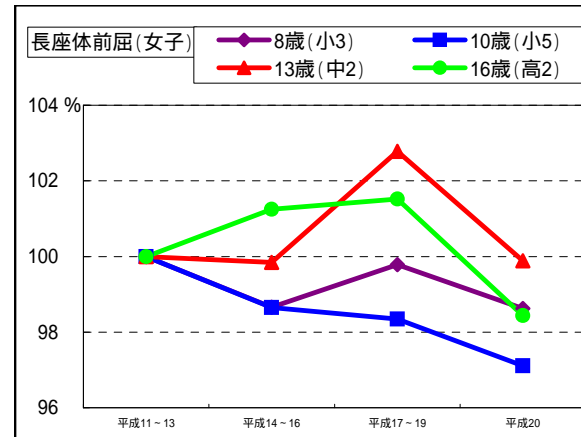
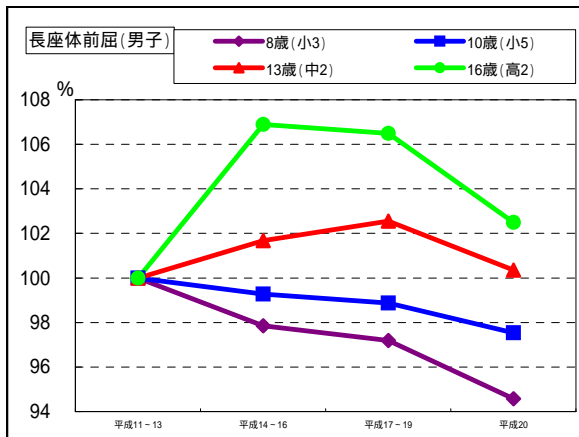
別紙2 「平均値の年次推移」



昭和53年～57年の平均値を100とした場合の5年間の平均値の割合を各種目別に示したもの。



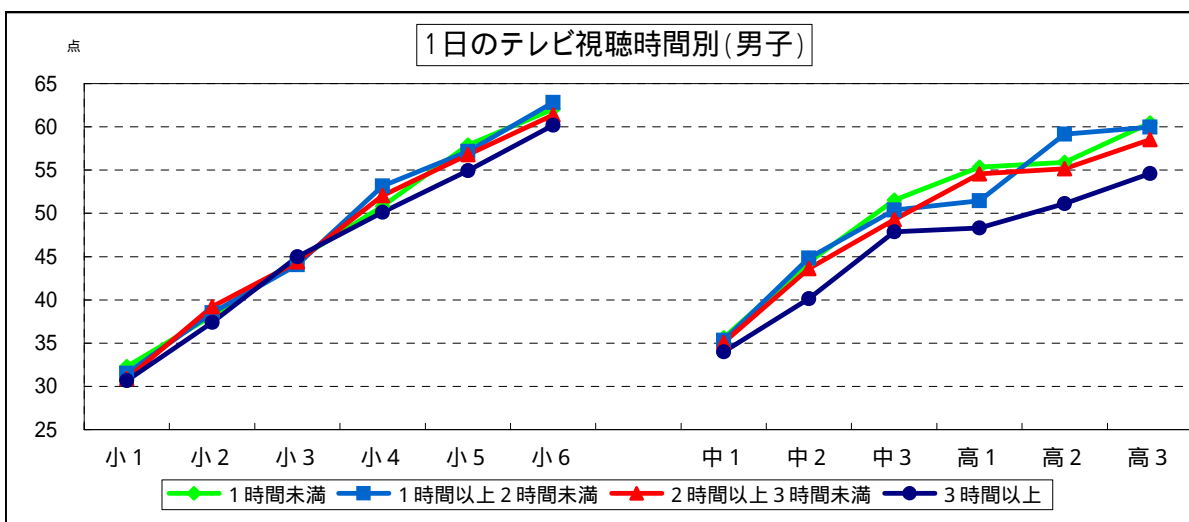
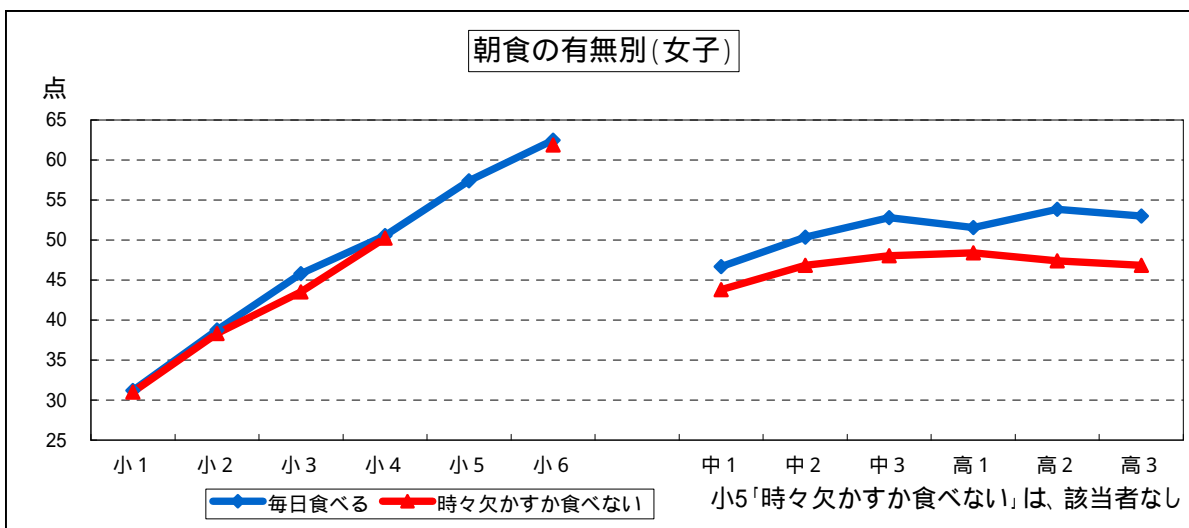
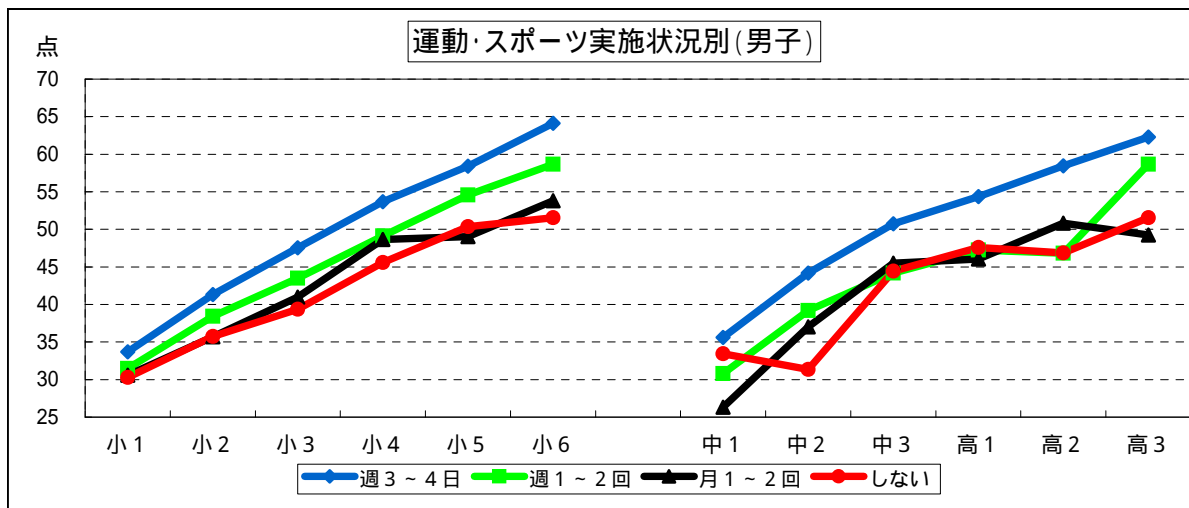
平成2～4の平均値を100とした場合の3年間の平均値の割合を各種目別に示したもの。



平成11～13の平均値を100とした場合の3年間の平均値の割合を各種目別に示したもの。

長年本県の課題とされてきた、50m走、ボール投げ、握力については、全体的に低下傾向に歯止めがかかり、改善の兆しが伺える。
 握力については、小5、中2の低下が著しい。
 長座体前屈は、平成20年度、全ての校種で低下傾向となり、新たな課題が見られた。

別紙3 「生活習慣と体力・運動能力の関係」



「運動部への所属あり」「運動の頻度が多い」「運動の実施時間が長い」群は、そうでない群に比べて、体力運動能力得点平均が高い。このことから、運動する機会が多いほど、体力運動能力が高いと言える。

「朝食あり」「テレビの視聴時間1時間未満」の群のそれぞれの体力運動能力得点平均が、そうでない群より高い学年が多い。このことから、生活習慣が体力運動能力に影響を及ぼしていると考えられることができる。また、このことは、学年が上がるにつれて大きくなる傾向にある。

各体力調査の関係について

体育保健課

1 新体力テストに関わる調査について

活用の仕方により名称が変わるが、児童生徒が行う体力(実技)調査は、基本的に「新体力テスト実施要領」に基づく新体力テスト一本である。

(1) 新体力テスト(県調査)

毎年、県内の児童生徒の体力・運動能力の把握のため、県教育委員会が県内公立の小・中・高等学校へ実施を依頼し、児童生徒の体力・運動能力、運動習慣等について調査している。

(2) 体力・運動能力調査(全国調査)

文部科学省が、国民の体力運動能力の現状を把握するため、毎年、全国の6歳から79歳までを調査。6歳から17歳については、各県小・中・高等学校から各3校を抽出し、新体力テストの結果を調査票(文部科学省作成)に記入して、体育保健課経由で文部科学省へ提出している。

(3) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(全国調査)

文部科学省が、平成20年度から小学校5年生、中学校2年生全員を対象に、全国的な子どもの体力の状況把握と、学校における体育・健康に関する指導などの改善のため、数項目の質問紙による調査を新体力テストに加えて実施している。

2 各調査の流れ

調査名 月	(1) 新体力テスト (県調査)	(2) 体力・運動能力調査 (全国調査)	(3) 全国体力・運動能力運動習慣等調査 (全国調査)
5～7月	新体力テストの実施 (県内公立の小・中・高等学校の全児童・生徒) 新体力テストの記録		
	各学年、指定された児童生徒の記録をエクセルシートに入力	小学校各学年 男女各8名 中学校各学年男女各10名 高等学校各学年男女9名の記録を調査票に記入 小5年、中2年の記録は、全国調査の調査票をコピーした物でよい。	小5年、中2年の全児童生徒の記録を調査票に記入。加えて、質問項目(数項目)に回答して記入。
	体育保健課へ送付 8月	体育保健課へ送付 ↓ 文部科学省へ送付 8月	文部科学省(委託業者)へ送付 7月末